

## 死亡災害の根絶



ります。「被災者は心肺停止状態とのことですが速やかに現場調査の体制を整えられ、災害発生現場へ向かいます。こうして監督署の災害調査が始まります。これまでに幾度も経験しましたが、重篤災害の連絡が入ったときはいつも重たい気分になります。

私が最初に災害調査に出たのは入省して2週間ほど経った頃でした。下水管の布設工事現場において、深さ約3メートル、幅約1メートルの掘削溝

内で、壁面の土砂崩壊を防ぐための土止め作業をしていたところ、溝の中で土止め部材を押さえていた作業員が、その部材の重さに耐えきれず、溝と部材に胸部を挟まれて死亡したものです。通常は「矢板」と呼ばれる専用部材などを使うのですが、このとき使用していた土止め部材は重量が500kg以上ある路面敷設用の鉄板でした。作業主任者などの法令上必要な資格者も配置されており

ませんでした。

その約2週間後に災害調査で出掛けたのはセメント工場でした。工場内には原材料を攪拌する機械が設けられており、被災者は機械内に入って羽根の取替作業を行っておりました。もちろん電源を切って作業を行っていましたが、他の作業員が誤って起動させてしまい、被災者は攪拌機械の中で羽根に巻き込まれて亡くなりました。調査に行ったとき、設備内が血まみれになっていたのを今でも忘れることができません。

これまでに調査した災

害を振り返りますと、設備等の物的対策の不備もあります。人側の不安全行動が絡むものが数多くございました。

イラスト・木村武司

「消防署から電話です」。電話を取った職員が安全衛生部署に繋がります。重篤災害の一報が入った瞬間です。被災場所は？ 災害発生状況は？ 被災者の容体は？ 搬送先は？ 消防署から一通りの確認を行った後、すぐさま署長まで報告があが